

---

# 額のカウントダウン

葦原那岐沙

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

額のカウントダウン

### 【NZコード】

N4837L

### 【作者名】

葦原那岐沙

### 【あらすじ】

朝起きると、僕の額に謎の『数字』が浮かんでいた。

この『数字』は日本全土、全ての人間に現れていた。

知人にも、家族にも。

(前書き)

初のホラー要素がある小説なので、まだまだつたない所があると思  
いますが。

お手柔らかに、よろしくお願ひします。

朝起きたら、額に数字が書いてあつた。

洗面所。いつものように洗顔と歯ブラシをするため、一々元に来た。

鏡を覗いたら、そこには僕の顔と。

謎の数字が額に浮かんでいた。

黒い文字で、マジックなどで書かれたわけではない。その証拠に幾ら強く洗っても拭いても、まったく落ちない。

不思議に思いつつも、リビングに行くと僕はさりげに困惑した。

家族全員の額に数字が浮かび上がっていた。

母は『4

父は『1

妹は『5

背中に悪寒が走った。

テレビが点いている。そこから朝のニュースが、随分と慌ただしく読みあげられている。

見慣れた朝のアナウンサーが言った。

アナウンサーの額には『1』の数字があつた。

僕は思わず吐き気がした。

父がテレビを静かに消し、僕たちに言った。

「落ち着こう、落ち着いて行動しよう」

母と妹は不安のどん底にいた。

僕と父は底知れない恐怖に追われていた。

S S S S S S S S S S S S S S S S S S

一週間が過ぎた。

国は、有力な情報を未だに何もつかめていない。

ただ、一つだけ分かつた事があつた。

一つは。日本国にいる、年齢、性別、人種関係なく全ての人間の額に数字が現れた。

二つ目は、額の数字は『9』が限界値で、二ケタの数字を持つ人間は今の所確認していない。

謎の組織によるテロ説、新種の病原菌説、宇宙人説。

色々な説が、テレビの中の評論家たちによつて飛び交わされた。勿論、額には名々数字を持つていた。

今日、中学校から登校許可が下りた。

今の所、この額の数字は、額に数字が表れた以外特に人体などには実害が無い。

一部の地域で、学校側が授業の再開を開始したのだ。

父や母は反対したが、僕は行く事にした。

額の数字と共に。

S S S S S S S S S S S S S S S S

クラスは、やはり数字の話題で賑わっていた。

僕もその会話に加わつた。

友達の額にも『9』や『6』など数字があつた。

親友の薫がクラスに入ってきた。

額には『1』と数字がある。

すぐに薫も話に加わり、数分してから担任の先生も入ってきた。

客には『1』と書いてあつた

翌日。

謎の泣き声で、僕の朝は始まつた。

リビングに行つてみる。

妹が大きな声で泣いていた。

母が床に頃垂れていた。

父がうつ伏せになつて倒れていた。

呆然としたまま立つていると、母が僕の元へ来て、強く抱きつけた。

父は死んでいた。

外傷は見受けられない。

顔は安らかな顔だ。

ただ、死んでいた。

テレビが点いている。そこから朝のニュースが、随分と慌ただしく読みあげられている。

いつもの見慣れた朝のアナウンサーはそこにいなかつた。

見た事のないアナウンサーが言った。

「今日、額に『1』の数字がある人が、早朝6時ごろ一斉に倒れ、亡くなられました。国の見解では - - - - -」

僕は酷く吐き気がした。

頭の中に『1』の数字を持つ人たちの顔が浮かび上がった。

父の額の数字は消えていた。

僕は悟った。

次に死ぬのは僕だ。

何時死ぬかは、今の僕には分からぬ。

今かもしない。

午後かもしない。

明日かもしない。

来週かもしない。

来月かもしない。

来年かもしない。

ただ、僕が次に死ぬとゆう事だけは分かった。

僕の額には『2』の数字が浮かんでいた。

(後書き)

この小説をお読み下さい、ありがとうございました。

いい点、悪い点、などなどあつまつたら、一言一言ちゃんと大目に励みになります。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4837/>

---

額のカウントダウン

2010年12月30日21時41分発行